

森は命の源「森は心林・守るのは誰か」

岐阜県宮村村長 大江 哲雄

■牛の研究・疑問を持つこと

ただいまご紹介をいたたきました大江でございます。

私は、皆さんのようなプロの中でお話するというということをご遠慮申し上げたのですけれども、今紹介がございましたように北海道に畜産の勉強に行きまして、マイナス30度位のところで、風呂をあがってタオルを絞っていると氷になるようなところで、仕事をし、勉強をしておりました。

それから岐阜県の職員になって何をしたかといいますと、牛を飼っておったのです。飛騨の牛をどのように管理するのか、どうしたらよくなるのか、つまり動物の習性、神経的なものを、御岳山麓に8年間、春・夏・秋24時間行動調査、どんな行動をし何を食べるのか調査をし、その頃皆さんの仲間に、先輩に大変お世話になりました。

牛の柵をやって国有林の中に入って草を食べさせて朝帰って来るんですね。皆さんにずいぶん怒られまして「何をやっているんだ」と言うので、私は「下刈りをやっているんです」と、この「舌刈り」なんですけどね。「下刈りをやっているのだから、むしろいいのじゃないのですか」と言うと、「いや木が傷むよ」と言われますので、「木は傷みません。たまたま背中が痒くなりますのでマッサージして、牛のため木のためにもいいんじゃないですか。糞とか尿とかを時々落として栄養にしますから、立ち入っても影響ありませんよ」と言いながら、片一方でどれくらいの影響があるかをずーっと調べておったのであります。

大変面白くてね、雌牛ばかりですともものすごく喧嘩するもんですよね。言葉の社会ではなく力の社会ですから、もう闘争をむき出しにして、ガーッとやるんですね。ところが一回決まったら、それからずーっと従うんです。

ですから、その5匹の雌に仲良くなればまとまってくるという習性を持っておりますので、それを今度は建物の中で飼うのに、以前は一頭一頭飼われておったのですが、可哀想だなと思ったんです。全部柵をはずしてしまっただけに集団管理ができないかというのが、今はもう大部時効ですから自分で言ってもいいでしょうけれども、全国で初めて集団管理をやった。つまり100頭を一人で飼う方法を考えたのです。

こんな話ばかりやっていると、これだけで4時間くらいかかりますので、お話を飛ばして行きますけれども、非常に面白い社会を作ってくるわけですね。一つは、8頭首を出すところがあって餌をやると、20頭くらいおるのですけれども、始めにボスが2頭で餌を食べるのです。とうもろこし、ご存じですねコーン、そのおいしいところだけを15分位で満腹するんです。つぎのグループは8個ありますけれ

けれども、4頭位並んで食べるのです。30分位かかって、つまり美味しいところを全部食べて、繊維料の多いところはなくなってしまいますから、私のような気の弱いものが最後に入ってきますから、45分かかって吹けば飛ぶようなところばかりを食べておる。というようなことを調整するために、電動で首を挟んでやる方法を考えたんです。これの特許を取っておけば今頃は楽に生活できておったのでしようけれど、特許はやめておけということで、今は日本だけでなく外国でも使っておりますけれども、ガチャンと最初は首に固定する方法を編み出したのですが、食べる時にはなかなか自分の餌を食べないで、隣から取って食べる。どこの社会にもいますけれどね。人間の社会にもいますけれど、取って食べてこちらをやっつけてしまう。ふらふらしている。ここだけ太って脂肪が多くなりますから妊娠もしない、というふうな結果になって、大変な色々な仕事を24時間寝ないで、牛に付きっきりで、そして編み出してきたのが、私の今までやってきた仕事なので色々疑問を持つのが地についてしまったのですね。

習慣的に疑問を持とう、おかしいじゃないか、じゃあデータを集めよう、どうしたらいいのかな、というふうな仕分けをやってこれるようになったと思うのです。

■ポイントは水

私がなぜ森にもものすごく関心を持っているのかと言うと、水がやっぱりキーワードだと思うのですね。水をもっともっと真剣に考えないと大変なことになるのじゃないかという感じを持ったのです。

幸い日本海、富山の方がいらっしゃっているようですけれども、富山湾に流れている神通川、その最上流部が宮村ですね。つまり源流部、分水嶺でございますけれども、神通川は神が通った川と書くのですね。実際に神が通ったという、1300年位前に、出雲から神がきてこの川を渡って宮村に居を構えたということから、全国に1カ所しか無いのですけれども宮村という名前ができたということでして、そういう意味から、平成6年に役場に入る前からずっと山に関わりのあるもの、皆さんのように専門的な知識ではなしに、山は誰のものかという論文も書いた記憶もありますし、ラジオ等でも喋った記憶もございます。誰のためのものだろうかということを考えておった。それはなぜかと言うと、20世紀はほとんどが首から下が喜ぶような、まあ頭はあんまり喜ばない、たとえば洗濯機でもテレビでもそうですし、ジェット機もそうですし、20世紀はほとんどそんな役割をしている。

そうすると21世紀はどうなるのか、いろんな方が21世紀、21世紀という言葉ばかり先走って、実際のところ何であるかという具体的ななものは示してこない。それで私は、21世紀はやっぱり自然だと、自然ということであれば当然森である。森は当たり前で水であろうと、水は命というふうに考えて、昨年5月「河川」という本が建設省から出ておりますけれども、そこで「命の源それは水」ということで、山を見て生きて色々論文を書いてきた訳です。

やっぱり詰まるところ、自然と共生とか、森との共生とか、分からないような言葉を言いますけれども、皆さんも分からないのですね。山と一緒に生きようとか、自

然は大事ですよとか言ったって、何が大事なのか皆は分からない訳です。分かるためにやっぱり、ポイントは、私は水に置いて考えるべきじゃないのかというふうに思っているのです。

■健康で社会貢献，秘訣は山登り

話が脱線しますけれども、つい先日署長さんが見えまして、お目にかかって非常に豪快な方でして、もう笑いがすごいですね。この方は健康だなということが分かりました。

よく笑う方は、笑わない方よりは頭の温度が下がります。温度が下がると脳細胞がしっかり動くんです。笑わないでブスッと一日している人は、辞めたらころっと病気に。

本当は、PKOにPをもう一つ付ければPPKO「ぴんぴんころり」といくのが理想なんです。私も今は今、村づくりをやっておりますけれども、人間が「ぴんぴんころり」といくような手法を考えなきゃいけない。先ほども署長さんと話したんですけど、宮村にヘルスクラブがあって150人位のメンバーがいるんです。その中に男性が何名いると思いますか？75歳で女性は足を広げて顔が着くんですよ、ペタッと。体操をやっていると「ぴんぴんころり」になるようにと。なかなか「ころり」は行きませんけれども、これから「ころり」と亡くなられた方には感謝状を出したらどうかと。要するに男性は一人しかいないのです。男の方は酒を飲むと威張って大きなことを言いますけれども、照れるのでしょうかね、羞恥心がないのに、あるような顔をして出てこないのです。

だからやっぱり健康管理は、女性が長生きするというのは二つ理由があると思うのですね。一つは母性本能で子供を育てること。もう一つは血管が太くて弾力性があるんです。男は態度ばかり大きくて、血管も細く硬いですね。ですから早く亡くなる。これは当たり前のことです。よく働いたから亡くなるなんて、そんな倒れるまで働かなんてそれは希ですから、まずそういうことはないのです。

ですから、これから皆さんも社会貢献は何からするのかと言えば、健康で社会に貢献することだと思うのです。

なぜ私がそういうことを言うのかというと、私の村では人口が増えているのです。ずーっと増え続けているのです。珍しい村です。50年前からすると人口は大方倍になっているのです。増えているのは、ほとんど退職者が来てお住まいになっている。つまり税金を頂けない方が沢山いらっしゃる。税金が頂けなくて非常に残念なんですけれども、病気になる人も高い。高い部分を見ますと、営林署の職員とは言いませんけれども、大体公務員の人が多いですね。学校の先生だとか、それから会社員。どれくらい病気になる率が多いかということ、一人あたり支払う保険の金額、つまり退職者保険金ですけれども、お辞めになられた方、57、8歳からやめて70歳まで退職者保険に入られる。その方一人あたりのお金の支払いが一番多いです。一番多いと言うことはどういうことかということ、病気が一番多いということですね。大病をされるということ、税金も貰わないで大病をされるとどうなるの

かという、これはもう介護保険で倒産するしか方法はないのではないかという感じを持っているので、私は健康をやれと言っておるんです。

その健康の秘訣は、先ほども署長さんと話していたのですが、山登りだということですね。山を単純に歩いてもあまり健康にはならないと思うのです。やっぱり疑問を持って、営林署の方、国有林を管理する方だから植物は詳しいかなと思って質問をすると全く分からない方が沢山いらっしゃいます。木の種類も私の方がよく知っているというような場合もたまたまあって、驚いたのですけれども、やっぱり疑問を持ちながら歩くと、足と口と、口ばかり達者な方がいますけれど、足と頭と連動して達者になるためには、やっぱり疑問をもつべきではないかという感じを持っているんです。

■関わりを持つ人の美意識

話を戻しますけれど、車の時代から歩く時代が変わってくる。歩いてみたいというのは、やっぱり文化であろうと思うのです。江戸時代からずっと色々探りを入れてみますと、今、行ってみたいなあというのは、そのときの贅沢なんです。そのときに美意識がない所と、ある所とはっきり差が出ているんです。今、訪ねてみたい町、村、あるいは森林は、美意識のある方が守ってきたところですよ。

単純に「あそこは素晴らしいよ」「日本の原風景だよ」「残っているよ」といっても、やっぱりそこに関わった人がどういう貢献をしたかということの方が、私は重要じゃないかと思うのです。本当に重要なことを忘れてつぎのことを発車しますと、大変な状況になるんじゃないかという気がしているから、森問題、水問題を皆さんにご指導頂ければありがたいと思っています。

■源流から河口までの連携、様々な枠を越えて

今、交流が大事だと思うんです。交流というのは一方通行の交流もありますし、双方向の交流もありますけれども、重要じゃないかと思うのです。

すいません、係の方、時間がきたらサインをして頂かないと・・・、私4時間位走る癖がありますので、ご迷惑になりますから必ず時間は守ります。話の内容よりも大江に講演を頼むと時間が必ず予定より早く終わると、これで評価されるのです。内容はどうでもいいんだそうですけれども、そういう方がほとんどです。「あなたは非常に約束を守っていただけなので、また来て」と、「何の約束ですか」というと「1時間といえど58分で終わるから、ピタリ良い」と、内容はどうでもいいのかなという感じを持たない訳でもないのです。

私、色々な話をいたしますけれども、一つか二つは良いことがあるものです。何も無いかも知れません。しかし良いことがあれば、やっぱり皆さんが具体化をしてほしいなと思うのです。

なぜ私が「連携」という言葉をボンボンボンボンやっているかと言いますと、今から地域だけの時代じゃなくなっている。私ども神通川の源流から富山湾の河口までを連携しようと、宮村は小さな村ですけれども、ちょうど26年前から宮川

一斉清掃，きれいにしようと村民総出で春と夏2回やっておったのです。色んな連携をやっておるおかげで，宮の源流から岩瀬浜の河口まで一斉クリーン作戦が一昨年からできるようになりました。

非常に長い時間がかかります。しかし連携というのは焦ってはいけない。やる気のない奴はバスに乗せなくてもいいよ，バスを待っている方が悪いじゃないか，発車しようということで始めたらですね，私の方も呼びかけて，富山の参加はよくないです，あまり。神通川連携の地元をやっていきますと，なぜ富山が良くないかというところ，やっぱりイタイ・イタイ病に原因があるんじゃないかということと，やっぱりイタイ・イタイ病に原因があるんじゃないかということとを心配していますけれども，私も色々なところに行って呼びかけをするんです。自分だけ枠を作っているところは駄目ですね，まず。「私は役人です」「私は山の管理をしています」なんて枠に入っている人は駄目ですね。社会にいかに関与するか，自分の仕事を通じて社会にいかに関与するか，というところの方が幅広く参加をしてくれるのです。

我々もそうですけれど，村という意識はあまり持っていません。地域という意識は特定をしませんから，たとえば飛騨地域，中部地域，そういう地域性をむしろ大事にすべきじゃないかということです。

そういう感覚を持たないと感性は育ちませんよ。

■森と川，歓声・感性・教育

また話が脱線しますけれど，私の村は今「感性声」を，ガーッと叫ぶような歓声ですね，子供のワーツという歓声を失っています。子供さんの歓声が・・・。その歓声と，心の問題の感性とをこだまする村づくりというタイトルをつけたんです。さあ，そこでつまり「カンセイ」を育てる，両方の，大きな声を出す歓声とソフトな心の感性を育てるものは，私は森と川だと思ふんです。

森と川の体験を奪ったために，子供さんが「チョウむかつく」とか「切れた」とか「うるせいなあ」という言葉を発するんじゃないかと思って，今子供に，学校の先生にボンボンボン言っているんです。まともな人間が育つためには森と川なんです。源流に行けば，せせらぎの水音があります。私の宮村は水音の始まる村でやっています。水音があります。水の色が日々変わります。水量が変わります。虫がいます。木々が花が咲きます。石が一個一個違います。動物も生態をあらわにしてくれるのが森と川だろうと思うのです。

今，父兄にそういう呼びかけをしますと「そんなことやったって大変だよ」「怪我をしたら誰が責任を持つか」。怪我をしないから，怪我をさせないから予知能力がわからない。危険を感知する能力を奪ってしまっているのです。

だから，若い職員の方も「俺はこれで十分だ。仕事はやってるよ」と言っているけれども，やはり川の体験，山の体験，子供の頃の体験がないまま育っていますから，危険を予知する能力を失ってしまっているんじゃないかと思っています。

原風景，つまり川とか森とかによって汗を流す，涙が出る，寂しいという感じを持たないと本物の人のいたわりなんて生まれてくるはずがない。少くく勉強し

て10点取ったって、10点よけい取ったって人生どうなるか、関係ないです。それよりもやる気だろうと思うのです。やる気を出さすためには、そういう汗をかかす体験をさせた方が、仲間を大事にする意識が芽生えると思います。

教育界と私どもは、しょっちゅう論戦を張っていますけれども、私はやっぱり現場主義なんです。何でも現場第一なんです。あとのことは自分でやることなんですから、どうしてもいいことばかり教えてしまって肝心なこと、それをなぜ気が付いたかと申しますと、子供の表彰式に行きまして、貰うんですね、たとえばビデオカメラを貰った学校のグループがいるんですが、このように持てないのです、箱を。こう挟むんです。壇上に上がって5分もしますと、こうなりますね、段々と。8人壇上に上がって一番小さな子供だけが下の手をかけたのです、小学校1年か2年の子が。中学生ですらこうやってる、そうすると持てませんよね、時間がたてば。そうすると、一番小さな子が横目で突っついて、こうして持つんだと教えてるんです。反対ですね。あとから、小学生のその父兄に聞いたんです。「どういう環境で育てていますか」と。農家だから何でも手伝わせるんだそうです。稲刈りもやる。田植えも、泥だらけになって、体験させる。知恵でありますね。皆さんの時代はこう持ったでしょうけど、自分の力と物との感覚が分からなくなってくる。そういうことが、私はものすごく大事だと思っている。遊び心を育てるということですね。遊び心のない人はユーモアは絶対出てこないですね。ジョークをボンボン言うような人というのは大体感性豊かな人ですね。皮肉はどうかわかりませんが。面白い言葉、とりわけ川遊びなどをして、体験塾みたいなものですね、自然体験塾みたいなものですから、そこでしっかりと躰をされる。親から受ける躰じゃない、本当の自然体験の躰をされるんで、強制的にやる必要はないけれども、子供を放牧したらどうだろうか、放牧というのは放し飼いですね、要するに鎖に繋がらない管理をしてみたらどうか、という風に呼びかけをしているんです。

こんなことをやっている、いろんなところで喋りに来いと言われるんで、もったときついことを言うんです。たとえば、お母さんたちの集まりですと言いやすいものですから、盛んに言っておるんですけれど、やっぱり私は、頭の空間がない、頭の空間というのは心の空間、心の空間をつけるには何だろう。まず森林空間だろう。「いや木がいっぱい立っているから空間はないよ」とおっしゃるかもしれませんが、すべて空間であります。自然空間は森林空間です。二つ目は川の空間です、河川空間です。将来的には福祉空間、河川福祉空間という名をつけて・・・厚生省で調査に入ってくれています。色々な提案をいたしますと、国の役人も乗ってきてくれています。今はやっぱり提案をしなければ答は返ってこないものですから、どんどん提案をしているのです。どういう訳か、私はちょっと厚かましいのでしょうか、黙っておれば役が当たらないのですが、喋るものですから、どこかで、出て来いと言われる。調子がいいものですから、そうですかと出て行って提案をする。そうすると、色々な気持ちがぐっと合う人がいらっしゃるんですね。そういうことから仲間ができるんですけれど、やっぱり職場でも職場空間が大事だ。熊崎さんが前に見えるので喋りにくいんですが、なるべく後ろの方に居てくださればと思うのですが、宮村出身の真田さんも立っているし・・・。特別室にでも入れておいて頂け

れば喋りやすいんですけど。

いずれにしても、私はそういう自然空間を大事にしていきたいと思っているんです。だから共生だとか、山はみんなのものと言ったって、何のことか分かりません。分かるのは言っている人だけ、そういうものなんです。だから、自然とかそういう漠としたものはより具体的に説明しなければなりません。

今、食料の自給率でも40%を割っています。皆さんが食べているもののほとんどは外国のものです。中華そばを1回、うどんでもいいです。食べたら、どんぶりとお水だけ日本で、あと全部あちらだと理解してよろしいです。箸は日本じゃないです。大方90%は外国ですから、そうすると外国の食料で我々は生きているということになると、大変なことになってしまうと思うのです。ですから、できるだけそばを食べよう、そばは国産材と思ったら98%輸入品なんですね。いろいろやってみると面白いんです、食べ物でも。たとえばミンチカツを食べよう、肉は国産かなと思えば、肉は穀物で育ちますから、ほとんど外国産ですね。肉類は、かつ丼を食べたって、米は国産で、ころもから油から全部外国のものなんですね。

■源流の森づくり

少しずつ本論に戻して行きますけれども、神通川の連携研究会はものすごく大事にしていきたいと思うのはですね、300人限定で源流の森づくりをやっている。寺本さんに提案をしたんです。いらっしゃいますか？寺本さんに提案をしたというのは、源流の森づくりをやりたい、今まで植樹祭というと皆さんの仲間と森林組合、山を持っている人だけが集まって、身内だけで木を植えて拍手をしておったんです。何にもならない、これでは駄目だ、河口から子供さんと呼ぼう、子供さんと呼ばばおばさんも付いてくる、おばさんが付いてくれば旦那も付録だから付いてくるだろう。そうすると纏まりがいいや。それにスキー場を持っている。モンディーズという名前の、ラテン語で神の山です。山の神じゃないですよ。皆さんのところは山の神かもしれませんが、私のところは神の山です。スキー場です。村営ですからぜひ来てください。モンディーズ、神の山という地名のところはスキー場でもあまりないのです。

源流の森づくりの体験の中で、親子感想を聞きますと、ものすごく良い催しだと言うんです。この企画は寺本さんに委ねたのですけれども、素晴らしい企画だと言って頂けました。役場の職員は全部で80名居ますけれども、300名の人に森づくりの汗をかいてもらいますから、朝5時に行っておにぎりを作ります。豚汁も作ります。魚も焼きます。仕分けを皆でバランス良くお手だしをしてもらい、そうすると飛騨の人のもてなしが下流の方々に伝わって行くという風なことができます。職員も日曜日なしで皆がかちんと集まって、ぶつぶつ言いながらも5回もやっていますと慣れてきて、サービスしようと、今、ありがとうございますと言えるようになりました。「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」とちゃんとと言える。それはモンディーズスキー場に女子職員が厨房に毎日、土日に4人ぐらいです。男性は朝5時に行き、駐車場の整理係です。そういふうにして、そうするとお客さん

の気持ちが分かって、職員も少しずつマナーが良くなってきました。色んな方がいらっしやいまして、飛騨の中には20の市町村がありますけれども一番挨拶ができる村と、私はまだまだ十分じゃないと思いますけれども、その原因はやはり源流の森づくりから発生しているんじゃないかというふうな気がしているんです。ですから、何か決まった仕事というのでは、やっぱりどうしてもできない。新しい創造力というものは湧いてこないと思うのです。決まった仕事以外のものから、具体的なものになると人間も変わってきます。今の人、活字を読みませんからね、新聞を一生懸命読むなんていう若い人はあまりいないんで、不思議で仕方ないんですね。本もあまり見ない、何で情報を得ているかという、まあいろいろ方法があるでしょうけれど、インターネットだけが情報だと思っていらっしやる方もいる。私もやっていますけれども、それだけでは十分ではない。もっと確実性の高い、将来的なビジョンを描けるような情報がほしいということで、いろいろなものを、活字を目を通してしているんですけれども、これから神通川流域の連携をやっている一つの意気込みは、皆でやろうと、上流から河口まで皆で同じ仕事をしようと、皆で上流域を、たとえば河口の方は上流を見ようと、この川の汚れはどこなんだろうと、あるいは上流の人は河口に行って、魚が獲れなくなったよと、素晴らしい有機質を、水と一緒に流れてくる河口は魚が育つんですね。魚が上流を見ていると思うんです。お互いに見つめ合っているということになると、もっともっと真剣に森づくりができるんじゃないかと、それこそ本物の共生ではないかというふうに思っておるんです。ところが、そういうものを今しっかりやっておかないと、山村もなだれ現象になるんじゃないか、今、町村合併が叫ばれていますね、たとえば、富山県の八尾町は6つか7つの村が合併してできあがっていますけれども、合併した周辺の村が過疎になっていますね。中心のところへなだれ現象で寄ってきています。町村合併が必ずしも良いものではないとは私は思っています。ところが、そうではない山田村のような合併していなかった村が、今、日本全国区になりました。利賀村もそうです。周囲の取り込まれなかった村が生き生きして、取り込まれた所は生き生きしていない。だから周辺の山は誰が守るのかということに今後なってくると思うのです。こういうことを考えておかないと問題が出てくる、つまり農山村も人に世話をする人が居なくなってきましたね。以前はいろんなことで世話係、人のことは色んなことで走り回っている人がいた。今、見かけませんよね。職場でも見られなくなった。前は職場で独身だと言えど寄ってたかってごちゃごちゃやっていたけど、今は皆知らない顔をしていますよね。そうすると、女性に説得するエネルギーが湧いてこなくなる。沢山理由がありますけれどもね、兄弟が少ないとか、あるいは飽食、常に満腹していますから闘争本能が失われていますから、私たちの年齢のように何も食べものがない方が、人の物をいかにして取るか、黙って盗んでくるか、こういう知恵がものすごく、作戦的に考えていた。今、役に立っていますね、それは。だって自分で取って食べたんじゃないでしょ、どちらかという取って子供さんに色んなものを与えた。つまり現代版のねずみ闘争のような役割を果たしていたのですけれども、そういうことの知恵がないために、地域連携をやりながらでも、連携も苦しく、連携もうまく十分できてこなくなっている。まず世話係を失って、何でも他人任せ、

誰かがやれば付いてくる、やらなければ一步下がって批判をする。というようなことしかできなくなってきた。つまりリーダーシップが育たない環境になっているんです。農山村でも。ですから、そういうリーダーシップが育つということは、もうどうするのかというと、行政的な発想はやめようと、行政的な発想をしないで、人は付いてこなくなってしまう時代です。民間の方々がやるような動きをしていますね。

■徹底した美意識で守られた宮村有林

宮村は1600町歩の村有林を持っています。ヒノキも良く育っていますし、良い山ですけれども、それによって村の財政を潤しておったのです。つまり30年代は55%を、たとえば1億の財政であれば5千万以上が、山の木を売って財政を潤していた。今はそうではないのです。山の木で財政を潤すことができませんから、皆さんに相当負担をかけますけれども、そういう習慣が育っていますので、何とも仕方ない。ですから今度はその反面、木が売れないからと言って木を放置する訳にはいけない。私どもの村でも少ない財政の中で、今、村有林の保護管理に1億ぐらいかけています。これは先人が一生懸命やってきた、過去の人たちが徹底した美意識を持っておって山を守ってきた、我々が手抜きをしたらもう2度と復活しないということになれば、このときにこそお金をつぎ込むべきじゃないかというふうにして、大したことはないかもしれませんが一生懸命やらせて貰っております。

■宮村のイチイ、臥竜桜・炭

話は前後しましたけれども、宮村は天皇家即位に杓を献上する山があります。位山といいます。全国に1カ所しかありません。全国に1カ所しかないというのは、ある意味では良いことだと思うのですけれども、大事にしていきたい。イチイの八百年くらいのが10本くらいありますか、国有林には二千年のイチイがあります。それはずーっと宮村の観光パンフレットから、いろんなところに掲載させて頂いてありますけれども、今度は何か保護の木にしてほしいと、思って準備をしていただいておりますので、できたらイチイの木と水とセットにできないかなと、名木、名水、というふうにできると。今、水には人が集まるんです、ずいぶん。もちろん大木にも人が集まりますけれども、水にも人が集まるんです。

大木の話をしましたけれども、もう一つ宮村に臥竜桜という桜があります。名前が良くないですね。日本三大桜の中にも薄墨桜が入っていますが臥竜もそのつぎくらいです。千年を超えていますけれども、その木がですね、もちろん皆さん専門家ですけど、根が片一方に動きますが、120センチ土を埋めたんです。埋めたらどうなるか、含有水分化量が200%を超えるんです。つまり一度吸ったら絶対外に出てこないという水の量です。土を埋めちゃったんです。もちろんその中には一升瓶も入っていましたし、花見をやったんでしょうね、傾斜のところでは花見ができないから埋めたというんですね。根が窒息して、全部窒息して羊糞のような状態になっています。それは何年かかかって発見をしたんですけれども、腐って

しまっている。もう放つといたら3年の命だなということで、土を全部取って、私どもの村で作っているセラミック炭、というのは皆さんご存じじゃないかもしれませんが、窯で炭を焼くのではなく炭化炉で回転をしながら15分で炭ができる、セラミックでコーティングして1000℃で焼くから気孔は9割に達する、備長炭は30%です。したがって通気性が良い、土壌に対してよくなじむということで、36%入れたんです。去年の11月に掘ってみました。沢山の根が出て、たぶん助かるんじゃないかと思うんです。やっぱり助けるにはセラミック炭を使ったという理由も一つありますし、もう一つは原因が落葉が早く、9月の上旬には葉が黄色くなって落ちてしまっている。春、花が咲くとすぐ色に変化をする。これはおかしいなど、私は疑問を持ちながら双眼鏡でずーっと鳥の行動を見ておったんです。飛んできて木の枝には止まりますけれども、下には1回も降りないのです。何百回もきても1回も降りない。これは多分ガス化をしているんじゃないか、ガスが発生しているなということで土を掘ったんです。簡単に土は掘れないのです。文化財になっておりますから、国指定の保護になっておりますので、岐阜大学の林教授に許可を得てやらなきゃできないので、先生に来ていただいて掘ったところ、根が全部腐っていたんです。全部出して、3千万か4千万ほどかかりましたけれども、入れ替えたところ、今、ミミズがいっぱい増えてきていますから、鳥も降りるようになりました。そういう見方から致しますと、大木を保護するには、やっぱり木の肌の色をじっと見なければいけないのかなと思っております。

私どもの臥竜桜が多分うまくなるかもしれないというのは、セラミック炭が効果を現したのではないかという気がしております。炭を省いたら必ず枯れます。2割くらい枯れます。1本枯れれば3万円、5本枯れれば15万円、炭は1袋1,000円ちょっとですから50本入れたって5万円くらい。炭を省いたばかりに大変なことになる。検査も楽です。粉の炭ですと層がわかりますけど、セラミック炭はそのまま粒子が残っています。2年くらい分かります。

木を育てるために、炭はものすごく有効ではないかと思うのです。もう一つ、セラミック炭は、部屋の臭いの脱落、冷蔵庫の臭いもなくなる、気孔というものは相当影響を持っている。どんな木を使っているかという、スギの間伐材を使っている。チップ化するのですけれども、山の適正な管理もできますし、製材所の端材も炭にできます。3年目ですけれども、少しずつ理解して頂いています。爽やかで頭が冴え、水の浄化も絶対いいですね。環境を緩和できると言われています。私たちの職場ではずーっと置いてあります。職員が健康になったかどうかは知りませんが、風邪をひく率はうんと少なくなっています。

■ 梓を取り扱う、今の森林管理署では

そんなことを今やっているのですが、色々な話をしていると、みんな梓の中に入って動いているんですね。役所という梓、村という梓、地域という梓、固有名詞、名前、あるいは学歴という梓の中にどっぷりとつかって話をしにくくしている。

ところが、最近、森林管理署の中の方々と話をしていると、非常に柔らかくなっている。高山のところへ年始のあいさつに行きますと「あ、あの仕事はちゃんとやりますから」と始めに言われる。今までは「何とかして下さい」と言うのと「うーん」と言われて2、3年すると何とかなったかなと思っていました。今は「やります」と先に言われるんです。みなさんと話をするときには生き生きしてきたな、楽しくなってきたなという感じを持っているんです。以前はどちらかという、ちょっと暗かったんですけど、今は明るくなったかなという感じを持っているんです。だから、そういうふうになってきますと、おのずと知恵が湧いてきますし、議論もしなければいけないと思っています。昔は不言実行と言われましたが、今は有言実行です。どんどん議論して実行しなくてはいけない。議論をする対象は何であるとか、討論をする素材は何であるとか、どういう分析をしていったら良いのかということが必要ではないかと思っています。理屈抜きで、その場合にに応じてやらなきゃいけないと思うのです。

よく役所という言葉を使います。役所というのは役に立つところと書きます。役人と言いますが、役人は役に立つ人ですから、役に立たない人は役人とは言わないです。どれくらい役に立つのかなという、どんな組織でも1割から2割、本当に。

■叱ってくれる人、笑う人

若い人をお願いしたいのですが、叱ってくれる人を、お金を払ってでも探した方が良く思うのです。私も随分叩かれています。生意気でよく喋る、色々なことを言いますから。20代からラジオで10年ぐらい喋っていましたが、30代後半から全国を講演に歩いていましたから、生意気に言っておるんですけど、やっぱり叱ってくれる人がいないと人は育たないと思うのです。ちょっと生意気かも知れませんが、叱られると自立するだろうと思うのです。叱られる人というのは、今好まれない。怒る上司というのは一番好きでした。今でも会いたい。ほとんど亡くなっていますけれども。会いたいと思う人は厳しく言われる方です。何もされない上司、頭を撫でておった上司は何も思い出せない。だから厳しさのある人はくっついて行かなければいけないと思うのです。

二つ目は、よく笑う人、これは正直な証拠なのです。そういう人には完全について教を請う。叩かれて欲し、叱られて反省し、笑われて自分を見直すというふうに私は受け止めておりました。何せ、研究職というのは、1回もこれをやれと言われないのです。今の若い皆さんは、系統立てて仕事は決まっていますけれども、私どもは、この仕事をやれと言われたことが1回もないのです。自分でテーマを探すのです。そして確認をして一番始めに言いましたけれども、この牛の動線はどうなっているのか、いつ、どこで集まるのか、何を何キロ食べたのか、それを全部解析して、じゃあこのようにすれば良いのではないかと。夏に集まるのはなぜなのか、あるいは、そよ風を求めるのか、そういう分析をずっとやりながら、自分でテーマを考え、確認をし、自分で予算を取ってきたのです。だから怒られる人というのはものすごく嬉しかったですね。下刈りという話をしましたけれど、そのとき国有林

を管理する人は、そこに作業小屋があるんですが、水もやれんと言われたんです。そしたら若い人が「そこまで言わんでもいいじゃないか、一生懸命やっているんだから、あんな仕事よくやっているんだから、水ぐらいやりなさい」、そしたら、おばちゃんに来て「このトマト喰ってくれ、たまにはこれをやりなさいよ、山に住んでいるだから」と色々親切にしてくれました。

小坂に滝上という国有林があります。そこも、放牧場ですけれども、寝たり起きたりしていました。以前、管理小屋でした。野宿ばかりしているから可哀想だから、たまには畳の部屋で寝よと言われた親切を今でも思い起こします。国有林を管理する人は、本当に若い人たちの気持ちを汲んで、くだらんことをやっているな、牛のしっぽばかり見て、牛の子が産まれたとか、どのくらいおっぱい飲んだとか、そんなくだらんことやってるなど、そういう心をして頂いたことを今でも忘れない。やっぱり心の中が空っぽで、少し行動で示して頂くということに感謝しています。

■山は健康な職場

飛騨中の山は方々歩き回っておりまして、自然、森林というのは、健康空間と言いまして、健康空間というのは、健康を守るというのは、これは大事なことも知れませんが、やっぱり自分で山に行くしかないと思うのです。寺本さんに、山には、フィトンチッドというものがあって良いんだよということを教えて貰って、ああそうか、そういうものがある、そうすると山に居る人の方が都会に居る人よりは健康になることは確実だと思うんです。

皆さんは、ものすごく幸せな職業だと思います。山に、特に現場にいらっしゃる方がものすごくいい。少しぐらい出世しなくてもよいから、現場におった方が、辞めてから心のために役立つと思いますよ。病気にならないから。ただ、私は、あてにするからカリカリするのであって、私は万年係長でしてね、長い間。人が3年か5年係長でぽっと行くのに、私は10年ぐらい係長をやっていたから。ポストがないとかということではなく、仕事があったから、変わりたくなかったからです。これだけは完成させて欲しいということで、私の仲間がずいぶん胃が悪いとか、胃潰瘍になったとか、24時間の労働形態ですから胃潰瘍になります。で、私言ったんです。頭を使うから胃潰瘍になるんじゃないですよ、頭の使い方が下手だから胃潰瘍になるんじゃないかと。そうかなあ、と言っていましたけれども、要するにくだらんことを言っているんですよ。飯も食え、酒も呑めと、山の中に入って牛の追跡で24時間ついて歩くんですから、見失ったらデータはパーですから、一日おきですから、その間は酒を呑む。牛について歩くときは呑まない。こんな仕事は淋しいと言うんです。ところが、やっぱり、淋しさの中に何か近道を皆求めていけるような工夫をやるかというふうに心がけてやりました。

■山を守るための議論

私になぜ山に興味を持つかという、源流です。源流は100箇所ぐらいあります。宮村だけでも何箇所もありますから。つい最近、湧き水で素晴らしい水を見つ

けました。湧き水というと位山と言いましたが、イチイを天皇家に献上している山でポコッと湧いている水、これは神の水じゃないかということでできれば水と森と人を結びつけるものを作っていきたい。京都でやっているお水取りのような行事もやってみたいなというふうに思っているんです。

私は大事なことと思っているのは、常に感心していきたい。山へ行って「あ、すごい」「これはすごい」、沢山伐られない山でも「あ、これは今再生しつつあるな」という感じを持てば夢が広がるじゃないですか。色々な方々に「ちょっと伐りすぎだよ」と。

今の松垣署長さんにも言っています「ちょっと伐りすぎじゃない？」と。「今からは伐りませんよ、守りますよ」「伐らんで下さいよ、防災でも大変ですよ、伐られたために防災ダムに12億も金をかけて掘っているんですよ」こんなことはどうでもいいことなんですけど、やっぱり木を伐らないで下さい。「間引きで伐れませんか」と言ったら「それは大変ですよ」ということになりますから「木を伐ったら必ず心を起こしてください」「やりますよ」ということでいつも熊崎さん、神主さん、松垣さんそういう方々と色々なやりとりをしています。刺激をして本音を聞いて勉強をしているんです。「あの村長、生意気なことを言っている」と思われるぐらい言うと、ちょうど本音が聞ける。だから、遠慮してはいけない。どんどん言って注文をつける。「実はこうなんですよ」「あ、そうか」自分の諸々と置き換えて、この山を守るにはどうしたらよいかというふうな議論に到達すると思うんです。

■国有林とゴミ

これからの国有林は、できたら入るときに米の袋を渡して、帰るときに米の袋が空だったらお金を貰う。その人たちは1人2,000円、ゴミを一杯持っている方はただでよい。そうしないと山は汚染されてしまうのだらうと思うのです。私の村でも小さなキャンプ場を持っているんです。布団、毛布など捨てる寸前のものを持ってくるんですね。子供のおしめも持ってくるんです。全部捨てて行くんです。夏なのにラジアルタイヤの減ったものを8本、10本も持ってきて捨てて行くんです。もっとひどいのは、どこかで民宿を廃業したのでしょうか布団が30組も積んでありました。結構いい布団です。表を替えれば使えます。誰が始末するのでしょうか。私どもは、お金を払って、人を雇って4年やりました。タイヤを上げる、冷蔵庫を上げる、全部上げました。集める人、処理するお金、運ぶお金、相当かかりましたが、きれいにするとゴミは捨てないですね。汚いとゴミは捨てる、変な習性があるんです。ですから、これから国有林が開放しようかと言っているとゴミ捨て場になりますよ。とんでもない非常識な者がおりますから。今のお母さんというのは恐ろしいですよ。この間もキャンプ場で「駄目ですよ、こんなところにゴミを捨てては」と言ったら「あんたどういう資格で言ってるの？ どういう権利で言ってるの？」と。何も言えないですよ、「ごもつとも」てなもんですよ、資格はないんですから。知らなかったんですけども、花火を斜めにして松林にやっているんです。お母さんに注意したんです。「危険です、火事になったら大変ですから」と言ったら「何が

悪いの」と、こう来るんです。で、私は、大体わかるのは、目が笑わない人、怖いお母さんだなどということを感じました。目が笑う人というのはやさしい人だなど。何を言いたいかと言いますと、キャンプ場はやさしい方だけ来てくださいますと。

■言葉より目を優先、国産材普及

もう一つ、厚かましいんですけれど、できたら皆さんの課で住宅研究課か何かを作ってもらって、設計から木のデザイン、工夫を全部して、そして大工さんにわかるような教育をできるようなシステムを作りたいと思います。

林野庁に住宅〇〇課てありますよね、そして国産材が、もう外材が80%を超えたよと、そんなことばかり言っているでなしに、もっと基本的に何とか、そういうデザインから、今の若い人に聞いてみますと床柱なんかあっても無くても良いと言うんです。ヒノキの節のないのが良いじゃないか？と言うと、そんなこと関係ないと言うんです。気密性とか生活しやすい環境の方が第一だと言うんです。住宅というのは、やっぱり長持ちした方が良いじゃないですか？木でホッとする環境の方が良いじゃないですか？と言うと、いやそんなこと関係ないよと言うんです。そうすると今のナショナル住宅とか、ああいうスツ、ポットと一晩で形ができるような住宅が30%を超えていますね、大変な状況になってきています。

ですから国産材も、乾燥しなければ使えませんよ、曲がるような・・・てなことを言ってなくて、それをうまく調整してデザインから全部やれるような専門職を作って貰えるといいんじゃないかと思います。そういうような発想が意外とないんです。ちょっと生意気なことを言うかも知れませんが、そういう発想がない。で、木を使いなさい、木を使いなさいという言葉ばかり優先しているんです。言葉の優先より目の優先が大事なんです。これから目の時代ですから、言葉だけでそういうふうなことをやられるということは継続性ないんじゃないかと思います。色々な方をお願いをしておりますけれども、そんなことを言ったって大工さんの方が進んでいるし、大工さんの方が知恵があると言われる。いやいやそれはないですよ、それは展示をするということも大事ですけども、もっともっと大事にすることがあるんじゃないかというふうに思っているんです。

さっき言いましたように、できたら木造住宅研究課を作ってやって貰えることと、ゴミ袋を国有林を大事にしようと皆に渡す、帰ってくるときに空だったら2,000円取りますよ、ゴミを取りに行ってください、いや私はゴミを捨ててきませんよと言っても取りに行ってください、これからは、そういう時代になって来るんじゃないかと思います。そのことが、自然を大事にしようという気持ちが現れてくる。そうすると、遅いかもしれませんが、今の小さい子供さんから、そういうふうにトレーニングして置けば、山を大事してくれるんじゃないかという気がしているんです。

■イチイの保護問答

宮村に二千年のイチイがあります。そのイチイにつかっていると何もかも忘れられるし、健康になったような気がする。10歳くらい若返ったんじゃないかなあと思

います。そういうふうに木から受けられるものをどうするか。

つい昨年でしたか、署長さんに「あれは木の周囲に人が来て踏んでいくからすぐ窒息するよ」と言いましたら、すぐ柵をしてくれました。ところが私の方から「柵の面積が小さいから、もう少し大きくして下さい」と注文をつけたらすぐやって頂けるものですから、いいなあと思っているんです。大木を「かんしん」して見ているというのは、関心を持つということ、感心をするといっぱいありますから両方持っていけば素晴らしい木に見えてくるんです。「大事にしてあげなくちゃ」「そんなところに行っちゃ駄目」「木の下に坐ったら駄目」とクレームをつけてくる「何で悪いんですか?」、「それは呼吸しているんです、土が、それをお尻でぺたんと押さえたらどうなるんですか?」「そうですか、顔に坐られると同じことですね」、話が具体的で面白いと言われるんですが、何回も言われると面白くないという顔をします。

■関心、発見・水

私は、初心、感心、関心、苦心、四つの言葉を大事にしています。

初心、関心というのは大事だなと思うんです。毎日、山に行って、発見しなかったものを発見するんです。何回通っても分からなかったところを発見するんです。ついこの間、12月、いつも聞こえないところに水の音が聞こえたんです。何だろうと思って掘ってみたんですが、水が吹いてくるんです。分からなかったんです。それから、この山は水を生産する工場だから誰にも分からないようにして置こうということで、大きな蓋をして分からないようににしているんです。石の下には凄いきれいな水が出てくるんです。その水を持って行って分析して貰ったら最高の水だと言うんです。これは、源流から発する水源の調査をもっとやって欲しいなと思うんです。

宮村の国有林にも沢山の水があります。どういう水かといいますと、イワナが産卵に目の前に上がってきます。そういうふうなことを見てきて面白いなと感じています。そういう川というのは少なくなっています。国有林には、まだ沢山あります。私は、あまり言わないことにし、1年に1回写真を撮りに行くんです。その川は顔が写ります。木が写ります。そして秋の紅葉が流れてきます。それをスローシャッターで撮ります。水面に誰かが生きているような淵があります。この楓の淵を、そういうのを撮ってみたんです。

■雄と雌、人間の雄

動物の生態の方が出身ですから、その話をさせて貰いますと、なぜ雄の方が輝いていないかという不思議なんですね。他の鳥、皆見て下さい、雄の方が輝いているんですね、人間だけ雄の方が輝いていない、どぶねずみスタイル。鳥の社会は、小鳥なんかですと、セックスは口移しのような状態、ペニスありませんから、鳥は、それだけのことで卵を守り、雛に餌を運ぶんですね。種類によっては、雄と交代で卵を温める。魚に至っては、雄が子供を口の中で育てるものもありますね。人間の

雄はエネルギーがないのに威張っているんです。ライオンなんかは、他の雄が子供を殺しに来るんです。なぜ殺すんだと思いますか？これは、ほ乳、乳を飲むという作用がなくなるからです。乳を飲むという作用がなくなると、雌は発情期を迎えるからです。人間みたいにフリーではない、決まっているんです。そこに過酷な闘争の世界を繰り返しているんです。雉なんかもそうで、雄は華々しく、雌は分からない、あれは外敵に襲われないということがありますね。一つは卵を抱いて、雄は存在感をアピールしなければいけないということがあると思うんです。ですから、雉なんかでも何でもそうですけど、雄が雌をしっかりと守るという状況に自分たちで作っているんですね。猿ですね、一番だらしが無いのは。猿は218種類ありますけれど、夫婦でぺたんくくっついてるのは12, 3種類しかありません。あとは乱交性でありますから、自分の子供だということが全くわからない。ところが50頭単位で、その雄争いをして、歳をとった雄ははじかれ、血液が濃くなってきますと、次の雄が入り、次の雌を入れるとか、そういう知恵が十分働いているんです。

人間だけが十分その機能をしていないと思うんです。未だに、女のくせにとかいう人がいらっしゃる。やっぱり社会的な責任がどこにあるのかということだと思うんです。

■森は心の林、水は森、水は緑

一番大事なことは、私どもは、どんな仕事をしようと、何のために仕事をしているのかなあとという気持ちがないと、一步踏み出せないじゃないかと思うのです。何のために仕事をしているか？やっぱり山を守ることは、社会に貢献する最も重要なことだというふうに認識して欲しいなと思う。皆さんが山の管理をしています。適正な管理をし、適正な伐採をし、保護を間伐をやっている。これは、たまたまそこに仕事があって、その仕事は社会に最も貢献していますよということになってはいけないという感じがします。できれば、お願いですけれども何回でも、何回でも、そういう同じ人たちを、仲間を作っていく、たとえば、ネズミ算でNの2乗で計算しますと、自分を中心に両親2人ですね、その祖父母で4人になりますね、10代経過しますと1054人になります。20代経過すると100万です。24回繰り返すと1600万になります。ですから、皆さん24代先祖を遡ったら1600万人の人がいると理解して下さい。10代遡ったら千何人の血液の類似関係がある。そうすると、個人が個人でなくなってくる。

私は、森は心の林、心林である、水は森である、水は緑であるというふうに思っていますので、ですから皆さん、これからも力一杯どうか国有林を素晴らしい山にして欲しいし、地域の森林に波及効果を出して欲しいなと思っています。色々とりとめのない話をしましたが、ありがとうございました。